

新しいこと100選

SAGA2024の数々のチャレンジの中から、
厳選した100個をご紹介します。

【する】

アスリート視点の 大会づくり

No. 001-020

001

アスリートファーストのお弁当

ご当地の特産品や郷土料理をPRするためのメニューが中心だったこれまでの式典弁当を、「競技者のための食事レシピ集」に基づき、アスリートのコンディショニングにフォーカスした「アスリートBENTO」として展開。

002

365日、食でアスリートをサポート

従来、宿泊施設向けの食事対策の参考として作成されていた標準献立を、大会期間中に限った一過性のもではなく、日常的にアスリートの食を支えるための「競技者のための食事レシピ集」として刊行。



006

選手に負荷をかけない開・閉会式

従来、国体総合開会式では、選手はフィールドに長時間立ったまま式典に参加していたが、SAGA2024では椅子に座るスタイル(SAGA2024開催年の2024と国体初開催年の1946の文字に配列)に変更し、また、両大会の閉会式ではSAGAアリーナの観覧席を活用した。

007

「する」おもてなし

開・閉会式会場では、スポーツ体験を核としたおもてなし(＝ウェルスポエリア)を展開し、来場者に、式典を観るだけでなく、スポーツを「する」楽しさも感じてもらった。

003

入賞者の頑張りを “メダル”で称える

従来の国体では1～8位入賞者への賞状授与のみが通例であったが、SAGA2024では1～3位へ肥前びどろを埋め込んだ金・銀・銅の光り輝くメダル、4～8位へメダル型の記念品を授与し入賞者の頑張りを称えた。



004

選手団も観ることができる 式典プログラム

従来、各都道府県の選手団は入場行進の待機のため、パフォーマンスを観ることができないのが通例だった。SAGA2024では、選手団も楽しめるよう、パフォーマンスを選手団入場と同時に実施した。

005

携帯しやすいメダル巾着袋

ご自身の頑張りを称えるメダルと一緒に行動し、色々なところで披露していただきたいという想いを込めて、保管を重視した箱ではなく、軽くて携帯しやすい巾着袋を採用した。

008

個人の活躍にもスポットを当てる表彰

従来の都道府県対抗の要素に加えて、MVPや新記録、サックス賞(全障スポのチーム内で感謝を伝えたい選手)など、選手の活躍にスポットを当てた表彰制度「The Good Player of SAGA2024」を創設。受賞者には佐賀県の特産品など副賞を授与し、公式HPでも紹介した。



009

スポーツいっぱい運動

より気軽に身近に、スポーツに触れる機会をつくる「スポーツいっぱい運動」。イベントや出前講座、学校訪問を実施するには手軽にスポーツを楽しむプログラムを設定。ポッチャなどパラスポーツも大人気に。

010

世代を超えて楽しむスポーツ！

運動そのものを楽しむという“スポーツ”の本質を捉えて、世代を超えて一緒にプレーできるウォーキングフットボール競技の体験会を、元プロサッカー選手と共に子どもからお年寄りまで一緒に楽しんだ。

012

伴走者等へのメダル授与

従来の全障スポでは、表彰されメダルを授与されるのは選手として登録されているプレーヤーだけだったが、陸上競技とポッチャ競技において、選手と共に戦う伴走者やランプオペレーターにも、選手と同様にメダルを授与した。



015

新たに「男子総合成績」を発表

従来の国体では、「男女総合成績(天皇杯)」「女子総合成績(皇后杯)」のみが発表されていたが、史上初めて「男子総合成績」も発表した。

016

1～16位までの総合成績を発表

従来の国体では、総合成績を1～8位に入賞した都道府県のみ発表していたが、より多くのアスリートの頑張りに敬意を表するため、1～16位までの発表に拡大した。(発表が進むにつれ盛り上がるよう16位→1位の順で紹介)

011

想いやストーリーを込めた表彰関連物品

若楠国体の頃に植えた多良岳産スギを使用した総合成績表彰状用の額縁、佐賀県指定伝統的地場産品を使用した表彰状やメダル、佐賀県産の磁器で作った記念品や参加章・記念章など、県の想いやストーリーを込めている。



013

会期前競技の成績発表で 本会期競技を盛り上げ

国スポ総合開会式において、本会期前に行われた競技による総合成績を発表。それらの競技に出場した選手たちの頑張りを称えるとともに、これからはじまる競技のボルテージを高め、総合成績への興味や期待を高めた。

014

“すべての国民”のスポーツ大会

従来、デモンストレーションスポーツの参加対象は開催県の県民のみという指定だったが、“国民”スポーツ大会にちなんで、SAGA2024のデモスポは“全国民”が参加できるよう、できる限り参加対象範囲を拡大した。

017

アスリートを軸にしたPR

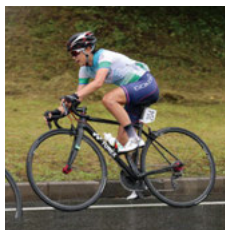
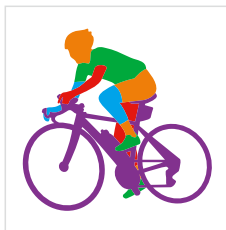
従来の国体・全障スポでは、マスコットキャラクターを前面に打ち出した、広報物やグッズ等を制作することが多かったが、“スポーツ”や“アスリート”を軸にした展開へと切り替え、各種ビジュアルや広報活動を行った。



018

リアルアスリート・ピクトプロジェクト

佐賀県内外で活躍する実在のアスリートのシルエットを元に、全競技のピクトグラムを制作し、広報をはじめ歓迎装飾やグッズなど幅広く活用。ピクトとして切り取った1つひとつの「瞬間」に物語性があり、大会のシンボルとなった。



019

トップアスリートからの技術指導！

県内プロスポーツチームに所属するアスリートが、部活動に取り組む中学・高校生に対して、丁寧に細かい実技指導だけでなく、高い精度で言語化された技術や戦術の座学も加え、自身の経験を踏まえた指導を行った。

020

ベビーが選手の赤ちゃんハイハイ競走！

子連れでのイベント参加はなかなか大変なもの。でも、ベビーが選手とあらば、いざ行かん！若いパパやママ、おじいちゃんやおばあちゃんも一緒に参加できる「赤ちゃんハイハイ競走」を開催し、大盛況に。

【 観る 】

エンターテインメント あふれる大会へ

No. 021-051

021

インスタライブを活用した 「観る」楽しみ増幅

国スポの総合閉会式では、式典直前、ピクトグラムとの記念撮影等で選手たちが盛り上がっている様子をインスタライブで配信し、会場に来られない人にも選手の目線を共有することで、観る楽しみを増幅させた。



022

自由に楽しさあふれる 選手団入場

従来、隊列を組み、整然と入場行進していたものを、“スポーツ”のもつ自由さ・楽しさを表現するため、隊列を組まずパレードのように入場するスタイルに変更。ステージ正面でのアピールタイムが大好評に。



023

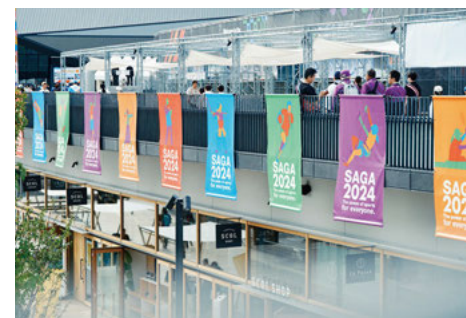
ガラスの炬火台&トーチ

国体から国スポへ変わる新しい大会にふさわしい炎を生み出すため、世界的デザイナーの吉岡徳仁さんにより世界でも類を見ないガラス製の炬火台・トーチが手掛けられた。両開会式での点火シーンは幻想的な雰囲気。

024

スポーツらしさを追求した会場装飾

レーンやコート、ボールなどをイメージしたパターングラフィックをメインにした会場装飾を展開することで、来場者がスポーツの持つワクワクさを感じられる会場づくりを行った。



025

新時代の エンタメアリーナでの 式典開催

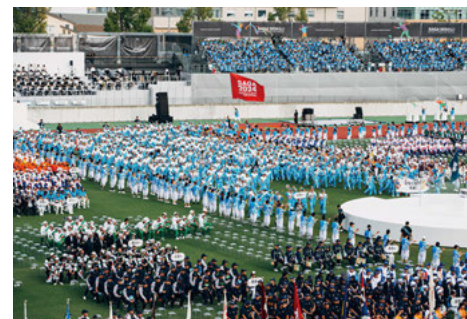
国スポ総合閉会式、全障スポ閉会式をSAGAアリーナで開催し、光や音、映像の演出を効果的に盛り込んだエンターテインメント性の高い華やかな式典を実現。選手たちが自然発生的にスマホライトを振るなど感動的な雰囲気となった。



026

選手団入場動線の一新

従来、選手団入場は決まった動線（メインスタンド左側から入場し、ステージ前を通ってトラックを半周）だったものを、全く新しい動線（バックスタンド側から左右交互に入り、ステージ正面に向かう）に変更し好評を博した。



027

選手団の入場順番の見直し

日本列島の北（北海道）もしくは南（沖縄県）からの入場順が固定化されていたが、過去の国体・全障スポに敬意を表し、前回の若楠国体（佐賀大会）の翌年からの開催順（青森県からのスタート）に入場するスタイルに変更。

028

プラカード、プラカードーの一新

選手団入場の際のプラカードを従来のデザインから一新し、SAGA2024のスポーツらしいデザインを施した。また、プラカードーもパフォーマーの一員と捉え、学校の制服ではなくパフォーマーと同じ衣装とした。

029

炬火の炎を全市町へ配火

従来行われていた各地で採火された火をつなぐ「炬火リレー」や「集火式」ではなく、すべての人にスポーツのチカラを届けるため、式典で灯された炬火を県内各地へ配る「配火」を実施。大会期間中、各会場でみんなを見守る炎となった。

031

シンプルなロイヤルボックス

これまでは生花や地元PR等で華やかに装飾されていたロイヤルボックスを、“スポーツ”らしさを感じる会場の雰囲気と馴染むように、シンプルなデザインとした。

030

全障スポ・閉会式における サテライト会場設置

全障スポ閉会式のアリーナ開催に伴い、一般観覧者はサテライト会場での観覧となった。LIVE中継で両会場を繋ぎ、式典の感動や会場の盛り上げりをリアルタイムで届けることで、大会の閉幕を全員で体感できた。

032

MCやゲストの競技会観戦

開会式に登壇するMCやゲストの方々は、開会式の出演にとどまらず、県内各地で競技を観戦。そして、そこで感じたスポーツの感動や熱気、新しい大会らしさについて、閉会式でレポートした。

033

式典会場を ブルーに染め上げる

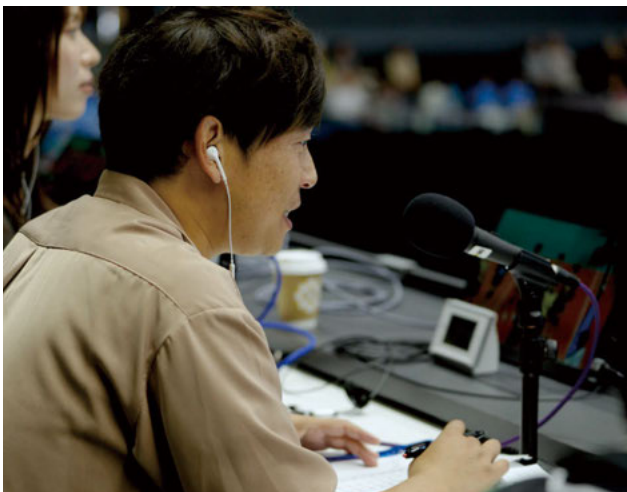
プロスポーツの応援席のように、観覧者に特製ブルーTシャツを配布し、会場全体をブルーに染め上げることで、みんなで全国の選手たちを歓迎し、盛り上げる雰囲気を創出した。



034

はじめて 観戦する方でも 楽しめる実況・解説

国スポ・正式競技のライブ配信において、従来はなかった実況や解説を独自に実施。競技に詳しくない方でも楽しめるよう、試合の進行状況やポイントなどを分かりやすく伝えた。



037

大会グッズの統一性

オリジナルグッズ販売店にもSAGA2024ロゴの使い方、デザインのガイドライン等を共有し、大会ビジュアルイメージと統一性を持たせ、ひとつのスポーツ大会としてグッズ展開した。

038

“つなぐ”を意識した服装

運営スタッフのユニフォームを、会場装飾にマッチしたデザイン(“つなぐ”ということで襷を意識した斜めの模様)とすることで、カラーの違いによる識別性に加え、スタイリッシュに作り上げた会場との一体感を持たせることができた。



039

シンプルな公式グッズ

SAGA2024のコンセプトに基づき、SAGA2024のロゴを前面に打ち出した、シンプルかつスタイリッシュで普段使いできるデザインの公式グッズを制作。大会ロゴを身に着けた多くの方々が盛り上げにも一役買った。

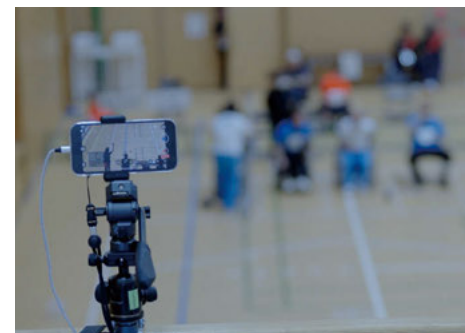
035

国スポ全競技全試合の動画配信

過去の国体では決勝戦等を中心に試合の様子を配信していたが、SAGA2024国スポでは、従来の約3倍となる全競技全試合で動画配信を実施。全国へスポーツのチカラを届けた。



036



史上初の全障スポ動画配信

全障スポにおいて、これまで行われていなかった正式競技すべてのライブ配信を実現。全国どこからでも競技観戦が楽しめる環境づくりを行い、スポーツを「観る」ための新たな選択肢をつくった。



040

観戦ポイントが分かるガイドブック

初めて観る競技でも観戦を楽しめるよう、基本的なルールや見どころ、応援マナー等をイメージしやすい写真を添えて分かりやすくまとめた観戦ガイドブック。電子版も使い勝手がよく、「応援」にも一役買った。

041

観戦ガイドブックの読み上げ機能

従来の観戦ガイドブックでは、一部ページのみにしか音声読み上げ機能は付与されていなかったが、視覚に障がいのある方も楽しめる観戦ガイドブックにするために、全ページに読み上げ機能を付与した。

042

観戦機会を創出する ナイトゲーム

学校や仕事帰りでも競技観戦が楽しめるように、夜を含めた幅広い時間帯での競技「ナイトゲーム」を開催（国スポ・全障スポあわせて全6競技）。ライトアップされた会場では、多くの方が昼間とは一味違う雰囲気を楽しんだ。



043

注目選手やチームのアナザーストーリー！

SAGA2024に出場が期待される選手や注目選手の休日の過ごし方や趣味など、競技シーン以外にフォーカスした「アナザーストーリー」を特集。アスリートをより身近に感じることができ、応援機運の盛り上げに一役買った。

044

スタイリッシュなダイジェストムービー

SAGA2024の感動が鮮やかに蘇るよう、国スポ・全障スポ・新しい取組の3テーマごとに、それぞれ5分程度にまとめた、従来はなかったスタイリッシュな映像を制作した。

045

佐賀丸ごと観戦ツアー！

多くの県外の方に佐賀県やSAGA2024を堪能してもらうため、国スポ会期前競技の期間中、競技観戦・グルメ・温泉など、佐賀のホンモノをまとめて楽しめる観戦ツアーを複数コースで実施した。

046

スポーツ漫画を入り口にした 体験機会等の創出！

スポーツを「する」のは苦手でも、スポーツ漫画やアニメなら敷居も低くなるはず。“はじめて”の国スポにちなんで、100タイトルのスポーツ漫画の第1巻だけをSAGA TRACKで開放。市図書館や書店にも動きが広がった。

047

誰もが安心できる観戦環境！

誰もがスポーツを楽しめることを目指し、発達障がいのある子どもたちや、その保護者の方、みんなが心地よく、安心して、最後まで観戦を楽しんでもらえるよう、SAGAアリーナの一角をリラックスできる雰囲気の観戦席とした。

048

音楽×スポーツ！

アスリートたちのことをより身近に感じて、寄り添って応援してもらえるように、アスリートたちが試合の前などに聴く勝曲を、それが勝曲になったエピソードや想いとともにラジオ番組やホームページ、国スポ総合開会式で紹介した。

049

見どころ情報を毎日発信

佐賀県選手団やオリンピックなどの出場情報、見どころなどを、毎日公式HPに公開することで、観戦・応援への機運を高める取り組みを実施。きめ細かな情報提供を行うことで「観る」楽しさを増幅させた。

050

大会全体のサウンドデザイン

イメージソングをアレンジした様々なバージョンを式典や競技会場で活用することで、大会をサウンドデザイン。会場内にとどまらず、バス車内、電車駅ホーム、学校やショッピングモールなど、「Batons」が佐賀県全体を彩った。

051

アルコール片手の スポーツ観戦

スポーツ観戦がより楽しめるように、SSP構想のうち「稼ぐ」という視点も取り入れ、一部の競技会場でアルコール類を販売。プロスポーツ観戦のように、ドリンク片手に一喜一憂する観客の姿が多く見られた。



【支える】

みんなでつくる 新しい大会

No. 052-068

052

就労支援施設とのコラボでPRグッズ

就労支援施設とコラボして大会ピクトグラムの缶バッジを制作、販売。県庁や空港に設置した缶バッジガチャが大人気。障がい者の方も一緒に大会をつくり上げるとともに、就労支援施設の受注増加にもつなげた。

055

PR出前授業「学校訪問2024」

県と市町が連携して、SAGA2024についての講話や競技体験の出前授業を学校訪問2024と称し、県内ほぼすべての小・中・高等学校等で実施。SAGA2024閉幕後も出前授業を継続し、新しい大会の成果を次世代につないだ。

058

SAGA2024大団結集会

SAGA2024が始まる約半年前に、サガンティアをはじめとした大会関係者2,681名がSAGAアリーナに一堂に集まる大団結集会を開催。本番のイメージや演出、「アスリートBENTO」など“新しい大会”を実際に体感し、大会へのボルテージを一気に高めた。

053



ブルーに染め上げる競技会場

佐賀県選手団のユニフォームのカラーに合わせて、ブルーのTシャツやビッグメガホンなど応援グッズを活用し、競技会場をブルーに染める「ブルー応援プロジェクト」を実施。アスリートを応援のチカラで後押しした。

056

「さがすたいる」を意識した大会づくり

多様な人々が混ざり合い、お互いの想いを知り、みんなが安心して出かけやすい佐賀をつくる「さがすたいる」の考えに基づき、式典会場内には持ち込めなかったベビーカーを持ち込めるようにし、サガンティアも研修会でその考え方を学んで本番に臨んだ。

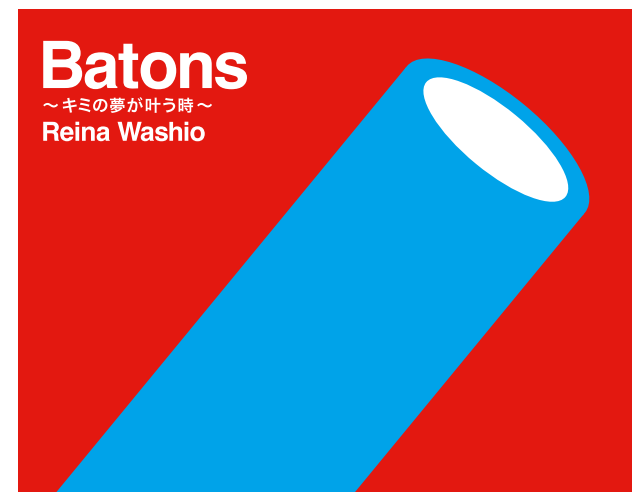


054

イメージソング 「Batons

～キミの夢が叶う時～

佐賀という字も方言も、特産品も一切ない、スポーツをする人、観る人、支える人の感動や苦悩に寄り添い、日常にも馴染むスポーツソング。大会を通じて広く愛され、永く歌い継がれる人生の応援歌となった。



057

みんなが参加するイメージソングPV

イメージソングPVの素材として、プレー中や観戦シーン、家族が支えるシーン、喜びや涙など、スポーツにまつわる様々な動画を広く募集し、PVに活用。曲や歌詞とマッチした映像は、見る人の心を揺さぶった。

059

佐賀県在住外国人と一緒に作る 英語版ホームページ

日本語のHPを機械的に翻訳して英語のHPとするのではなく、英語圏の方が興味を抱くように、佐賀県在住の外国人と一緒にディスカッションやスポーツ体験を重ね、内容を練り上げて英語版HPを制作した。

060



みんなもピクトグラム化

自動でピクトグラムになれる「SAGA2024ピクトメーカー」システムを開発。好きなポーズで撮影すれば、すぐにピクトグラムに変身。誰でも気軽に大会ピクトグラムになれることで、「新しい大会」を楽しく体感できた。

061

「観る」「支える」方もピクトグラムに

実在するアスリートのシルエットをモデルにした「する」ピクトグラムだけでなく、みんなで新しい大会をつくりあげるときの「観る」「支える」方も新しくピクトグラム化して、ポスターや広告等の広報物に活用した。



062

大会を支える協賛企業

大会と一緒に支えていただく協賛企業に敬意を表しSNSで紹介。多くの協賛企業が独自にSAGA2024をPRしたり、サガンティアに参加したり、協賛という枠を超えて様々な形で大会を支えた。

064

開・閉会式の盛り上げサポーター

従来、両大会の開閉会式に、都道府県応援団として地元の小中学校の児童生徒を呼んで全国の選手団にエールを送っていたが、「盛り上げサポーター」として一般からも広く募集し、幅広い世代での盛り上がりを実現。

066

Sagantier!が大活躍

ボランティアの方々も、大会を支える大切な主役。佐賀から新たなスポーツシーンを切り拓くという意味を込めた、SAGA+Frontier(フロンティア)で、“サガンティア”。みなさんの活躍でホスピタリティ溢れる、あたたかい大会に。



Sagantier!

063

みんなのアイデアで「新しい大会」をつくる

前例や慣習にとらわれず「スポーツだからできるアイデア」を広く募集し、みんなで「新しい大会」をつくり上げ、大会の在り方を変えるプロジェクト「IDEA2024」。目標の2024個を超える2106個もの応募があり、多数を実現した。



065

観客席を盛り上げるパフォーマー

観客席にスタンドパフォーマーを配置し、観客のすぐ側で動きやタイミングを笑顔で分かりやすく伝えた。フィールド内のパフォーマーや選手と連動することで、観客席を含めた式典会場が一体となり、盛り上がる雰囲気をつくり出した。



067

大学生広報ボランティア「seeds」

従来の学生ボランティアのような、職員のサポート役としてではなく、学生自らが自由な発想で企画から実行まで行う広報チーム「seeds(シーズ)」を結成。ロゴや広報誌の制作、seedsのSNSアカウントで同世代への発信を行った。

068

プロスポーツチームも一体となったPR

県内プロスポーツチームのサポーターやファンにSAGA2024の情報を届けるため、バレーやバスケのジャンプの最高到達点にチャレンジするボードに挑戦して貰ってSNSで発信するなど、プロスポーツチームと連携したPRを展開。

【舞台裏】

「新しい大会」を生み出す仕掛け

No. 069-100

069

佐賀から挑戦する新しいスポーツシーン

SSP構想を推進する佐賀県では、SAGA2024はゴールでなく、SSP構想の大きな通過点・跳躍点として位置付けている。「する・観る・支える」に加えて、「育てる・稼ぐ」観点も重視し、未来を見据えた人づくり・地域づくりを進めている。

070

大会の磨き上げに 「さがデザイン」の視点を

行政施策をデザイン視点で磨き上げを行う「さがデザイン」の観点から、地元への想いがある複数の佐賀県出身クリエイターを随所に起用。国スポ(国体)・全障スポの歴史が変わる大会をともに磨き上げ、全国へ発信した。

071

県下統一的なデザイン

SAGA2024全体デザインの統一性、クオリティを担保するために、式典会場のみならず、競技会場を含めて統一感を出すことで、全体で一つの大きな大会としてブランディングした。

073

飾らない シンプルな愛称

「SAGA2024」は、国民体育大会から国民スポーツ大会へと変わる「新しい大会」にふさわしい、これまでに例のない斬新な愛称。スポーツへの徹底的なこだわりを、飾らないシンプルさで表した。



072

知事とJSPO会長の 共同発表

従来は開催県のみで発表をしていた愛称やスローガン。佐賀県は知事と日本スポーツ協会会長が共同で愛称・メインメッセージを発表し、新しい大会の幕開けを全国に発信した。



※延期前の写真です。

074

イメージソングPVをカラオケ映像に

「Batons〜キミの夢が叶う時〜」のカラオケ配信を、大会約1年前から全国のカラオケ店で実現。さらに映像付配信としてPVを放映できるようにした。90点超でエントリーできる「カラオケチャレンジ」にも多くの方が挑戦した。

075

前例にとられない組織体制

国スポ・全障スポだけでなくその他のスポーツ関係所属も含めた部局を組織し、SAGA2024内でもプロジェクト毎に各チームから人を配置することで、県のスポーツ行政やSAGA2024として横断的で統一感のある組織機構とした。

076

スポーツ情報発信スペース 「SAGA TRACK」

県庁地下に常設のスポーツ関連展示・体験スペースの「SAGA TRACK(サガトラック)」を設置。SAGA2024のみならず、県内スポーツに関する様々なトピックスをタイムリーに届けた。



077



世界標準を佐賀から「スポーツホスピタリティ」

SAGAアリーナで開催されたバレーボール競技成年女子決勝戦において、観戦しながらビジネス交流を行う、新たな観戦スタイルである『SAGA2024ホスピタリティプログラム』を実施。SSP構想のもと、世界標準のスポーツの価値を発信した。

083

国スポと全障スポで ひとつの大会

これまで、国体と全障スポは別々のポスターで作成されるなどしてきたが、国スポと全障スポの両大会は不可分であり、ひとつのSAGA2024として捉え、大会コンセプトやデザイン(ポスターやグッズ等)を統一した。

078

全国へ“新しい大会”の想いを共有

SAGA2024が目指す大会像を伝えるため、佐賀県直近の後継県のみならず、全国の都道府県庁・スポーツ協会などに対して、新しい大会への想いをひとつひとつ丁寧に伝えた。

081

既存施設とSAGA2024の デザインの調和

SAGA2024では、大会のための施設整備ではなく、その先を見据えた施設としている。そこで、装飾については、例えば、SAGAサンライズパークなどの既存施設のデザインとうまく調和し、共存できるように展開した。



079

毎日が〇〇日前記念！

通常、100日前などの節目でイベントを行うが、多くの人にSAGA2024に関わってもらえるよう、節目にこだわらない、あらゆるイベントを「公式カウントダウンイベント」として公認。市町を含め多くの〇〇日前イベントを開催。

082

未来を見据えた 施設整備

SAGAアリーナは新時代のエンタメアリーナとして、スポーツのみならずコンサートや学会などにも活用。他にも九州クライミングベースSAGAなど、SSP構想に基づく選手の育成や国際大会の開催も視野に入れている。



084

職員全員がインフルエンサー

著名なインスタグラマーから投稿頻度や投稿タイミング、投稿内容等のアドバイスを貰い、それをもとに事務局の職員が全員交代で、様々なネタを、準備期間から大会本番まで毎日投稿し続け、機運を高めた。

080

地域主体の花いっぱい運動

従来、来県者のおもてなしの一環として県・市町が連携、主導していた街路などを花でお迎えする「花いっぱい運動」は、地域の自発的な運動として積極的に展開され、県はそれを後押しするかたちとなった。

085

みんなで考え、みんなで決めて、 みんなで作る式典

みんなで作る式典を目指し、式典パフォーマーを公募したり、振付にパフォーマーの意見を取り入れたり、高校生アナウンサーも自分たちで話し方を考えるなど、それぞれが自由で、自発的な活動を通じて式典を盛り上げた。

086



よりスポーツ観戦を楽しく。
「歩こう。佐賀県。」との連携

県民の歩くライフスタイルを推し進めるための施策『歩こう。佐賀県。』と連携し、佐賀県公式ウォーキングアプリ『SAGATOCO』を活用し、SAGA2024競技会観戦のスタンプラリーを実施。多くの方が県内各地でスポーツ観戦を楽しむきっかけにもなった。

087

ひとつのスポーツ大会を
意識したHPづくり

従来のホームページは、左半分が「国体」、右半分が「全障スポ」というビジュアルが多かったが、両大会合わせてSAGA2024ということを追求めたビジュアルのホームページを制作。「新しい大会」を余すところなく紹介した。

090

スポーツシーンの素材蓄積

大会約4年前から、SAGA2024関連の会議やイベント、アスリート達の普段の様子や練習、試合の様子等を記録として残し、アスリート達の努力やSAGA2024に至るまでの軌跡を紡ぐための資料とした。

088

県外競技の広報チーム

県外開催競技について、企画広報チーム内に各県外開催競技の広報担当者を配置。県外事務所と連携し、県外開催地での広報を実施することで各地での機運醸成を図った。

089

実情に応じた弁当価格の設定

1999年から四半世紀にわたって据え置かれてきた式典弁当の価格を、物価上昇の実情に合わせて900円→1,000円(税抜)に引き上げることで、県産食材を用いたアスリートのための弁当のクオリティを確保した。

092

県・市町が
一丸となって
新しい大会の実現へ

県と市町が一体となって「新しい大会」を実現するため、市町の新しい取組に対して開催3年前から県が後押し。広報など個別分野でも担当者が集まり、積極的にアイデアを出し合い、実現していった。



091

「スローガン」ではなく
「メッセージ」

「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」は、ご当地色のある「スローガン」ではなく、新しいスポーツ大会に対する想いをストレートに伝えるための「メッセージ」。ここに大会のすべてを凝縮した。



093

SAGA2024に込めた想いをインプット

イメージソングをつくり始める前に、作詞者・作曲者に対して、SAGA2024に込めた想いを各担当から数日かけてインプット。大会のことを知ってもらうことで、「する」「観る」「支える」視点が見事に盛り込まれた。



094

宿泊料金引き上げで県内宿泊を拡大

宿泊料金の上限額を、これまでの15,000円(1泊2食・税抜)を18,000円に引き上げることで、配宿の対象となる宿泊施設が拡大し、県内の客室確保の増加につながった。

095

宿泊でのフードロスを削減

従来の国体では食事のキャンセル期限が2日前のため、仕入れ済み食材のロスが多く発生するという課題もあった。SAGA2024では、キャンセル期限を「4日前」に変更することにより、フードロスの削減を図った。

096

リアル「バトン」で後催県へバトンパス

後催県にSAGA2024の想いを引き継ぐため、バトンのモニュメントを制作した。国スポ・総合閉会式後の共同記者会見では、滋賀県知事と共演し、そのモニュメントでリアルなバトンパスを再現し、フォトセッションを行った。



097

感謝の意を込めた 広告とポスター

SAGA2024全障スポ閉会式の翌日の朝刊で、SAGA2024に関わってくれた皆さまに向けて、感謝の気持ちを込めた広告を掲出した。さらにそれをポスター化して関係各所へ配布・掲示した。



098

佐賀・鹿児島 エールプロジェクト

コロナ禍により、'23年鹿児島大会と'24年佐賀大会という史上初の2年連続九州開催となった「双子の大会」を契機に、佐賀・鹿児島エールプロジェクトを展開。アスリート交流などスポーツをはじめ様々な分野で絆を深化させた。



099



スポーツにこだわった共同記者会見

大会終了後の共同記者会見では、大会と同じパターングラフィック装飾やBGMを用い、バトンパスやその様子をピクトグラムに起こしたアクリルパネルでのサイン交換を行うなど、最後まで「スポーツ」にこだわり抜いた演出を行った。

100

大会報告書リデザイン

形式的なデザインや仕様を見直し、誰に、何を、どんな風に伝えたいか議論を重ねた。『SAGA2024 RECORDS』という名称で誰もが親しみやすいようリデザインし、スポーツの熱気や感動、様々な記録をすべての人に伝えるものに。

